



菅波 茂

事務局長として民の立場を経験されている。見識と経験を学生指導に発揮されることが期待される。

4月11日。岡山国際交流センターで、公設国際貢献大学校運営機構の野秀利理事長と学校法人高梁学園の加計美也子理事長により、連携協力に関する協定の調印式が行われた。目的は4月に開設した吉備国際大学院国際協力研究科の運営と展開である。立会人として石井正弘知事、AMD Aグループを代表して私に参加した。

同研究科は三つの特徴がある。一つは県で初めて国際協力を専攻する大学院ということである。もう一つは情報技術(IT)を活用した通信制大学院であること。端的に言えば、世界の国際協力の現場で活動しながら学位取得が可能になる。最後の特徴は学科長、阿曾村邦昭氏の経歴である。ベネズエラ大使としての官の立場と、特定非営利活動法人「日本紛争予防センター」

記しておきたい。AMD Aグループとして同研究科を全面的に支援したい。特に国連NGO・AMD Aは1月、国連経済社会

理事会総合諮問資格が内定した。国際社会では137番目である。日本では4番目である。国連教育科学文化機関(ユネスコ)、国連児童基金(ユニセフ)、国連難民高等弁務官事務所などに関連した委員会で、政策提言できる資格である。

AMD Aには世界29カ国の支部や30余りの姉妹団体などの国際ネットワークがある。それはローカルイニシアチフのネットワークである。ローカルイニシアチフとは「現地の問題を一番よく知っている人が一番良い答えを持っている」ということで

AMD Aは既に大阪大学国際公共政策研究科や岡山大と協力協定を締結している日が夢である。国際貢献大学校はAMD Aグループの人材育成を担うAMD A国際福祉事業団が実質的に運営している。高梁学園との連携協力がIT活用による通信制大学院であることは、AMD Aグループにとっても大きな意味がある。AMD Aグループは海外の支部や姉妹団体に加え、3000人のローカルスタッフを雇用している。優秀で新進の気性に富んだ多くの人材がいる。彼らに希望と夢を与える機会にもなる。末筆ながら同研究科の成功を心からお祈り申し上げたい。(AMD A代表)

国際貢献大学校と高梁学園の連携協力